

会 議 録

(1 - 7)

会議の名称		第9回春日部市中心市街地まちづくり審議会	
開催日時		令和5年8月4日（金）	開 会 午後 1時45分
			閉 会 午後 3時30分
開催場所		春日部市役所 全員協議会室	
議長(会長等)氏名		久保田 尚	
出席者	委員氏名	(出席人数：14名)	
		久保田 尚、木下 芳郎、田中 久義、伊澤 秀雄、並木 素生	
		金重 光江、前澤 初夫、小川 一博、山崎 正雄、関根 肇 早川 芳夫、外谷地 友幸、福村 有祐、村田 睦剛	
席	説明者その他	(出席人数：11名)	
		[オブザーバー]埼玉県県土整備部道路街路課副課長：帆刈 章 意見聴取者10名	
者	事務局	(出席人数：5名)	
		鉄道高架担当部長：岡田 雅洋	
		鉄道高架担当次長（兼）鉄道高架推進課長：石塚 宏至	
		鉄道高架推進課鉄道高架推進担当主幹：岡崎 寿一	
		鉄道高架推進課鉄道高架推進担当主査：金井 司 鉄道高架推進課鉄道高架推進担当：1名	
次第及び公開・一部公開・非公開の区分		1 開会 2 議題（全て公開） 春日部駅東西駅前広場の基本計画等について 3 閉会	
一部公開・非公開の場合はその理由		<input type="checkbox"/> 要綱第3条第1号該当： <input type="checkbox"/> 要綱第3条第2号該当： <input type="checkbox"/> 要綱第3条第3号該当： <input type="checkbox"/> 要綱第3条第4号該当：	

配布資料	春日部駅東西駅前広場の基本計画等について
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音テープ等を使用した全文記録 <input type="checkbox"/> 録音テープ等を使用した要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
会議録署名の指定	並木 素生 委員

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
	《 これまでの春日部市中心市街地まちづくり審議会の経緯について 》
委員	中央一丁目再開発事業との整合が図られているのか。
事務局	中央一丁目再開発事業は、令和3年度に再開発のコンセプトをまとめた
	「まちづくり方針」を定めた。今回の基本計画は、そのまちづくり方針
	と整合を図っている。内容としては、地区のコンセプト方針、土地利用
	計画、一般車乗降場、歩行者自転車ネットワーク、導入機能について整
	合性を確認している。
委員	まちづくり方針では、春日部駅北西部地域はウォークブルシティという
	ことで回遊しやすいエリアを目指すとなっている。整合が図られている
	ということによいか。
事務局	「春日部市中心市街地まちづくり計画」では、人主役の交通環境整備を
	掲げており、その方針を踏まえ、本日検討した基本計画を提示する。
	《 議題1-1 春日部駅東西駅前広場の基本計画 》
	ポイント1 基本計画の全体方針
委員	一般車両と公共交通動線の分離とあるが、西口および東口について、具
	体的な乗降場を検討しているのか。
事務局	まちづくりの進捗に応じて段階的に検討を進めていく必要があると思っ
	ている。現段階では、既存商業施設、高架下、再開発事業地内、市保有
	地などが候補だと考えている。
委員	鉄道高架下の利用も考えているということか。
意見聴取者	現時点では未確定であるが、今後の議論になるかと思う。高架下空間が
	利活用できる範囲は、高さ3.2メートル以上の桁下空間がある箇所
	である。
意見聴取者	資料9ページの方針2について、記載のとおり本事業では、歩行者・公
	共交通に配慮した空間形成が重要だと考える。その上で、図内右側に書
	かれている青色破線について、これまで市が公共交通動線として計画し
	ていることは承知しているが、交通動線なのか、歩行者動線なのか、事
	業進捗にあわせて、今後しっかりと議論していく必要があると考えてい
	る。
事務局	連立事業の開始当初に利便性向上などのため計画したものである。また、
	公共交通の円滑な運行を確保するためのものでもある。計画の具体化に
	ついては、駅前広場の一体利用、高速バスの乗降場の設置等、今後の公

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	公共交通のニーズを見極め、具体的な議論を進めていく必要があると考える。
委員	高速バスの乗降場の中に観光バスも考慮されているという理解でよいか。今後、地下神殿ツアー等を企画していく上で、まちなかへの誘客も含め駅周辺の飲食店等も利用したく検討状況を確認したい。
事務局	高速バス乗降場は、観光バスも含めて検討を行っている。
	ポイント2 駅前広場利活用方法から想定される施設・機能
委員	中央一丁目において、セキュリティの低いフリーWi-Fiが整備されている。20年後を想定したまちづくりを進めていく上で、セキュリティの低いものではなく、高度なサービスとしての展開を検討いただきたい。こうしたサービスは高齢者にとってハードルが非常に高いという意見も聞いているが、DXが進んだ20年後では使用可能であると考え。そのような視点で考えてほしい。
事務局	参考にします。
	ポイント3 駅前広場に必要な公的施設
委員	西口の夜のライトアップが青色となっているが、都内では白か昼光色が多く使用されている。なぜ青色としたのか。
委員	整備当時、白色が入手できなかったという背景がある。その上で「まずやってみよう」と青色で実施した。
委員	素晴らしい取組であり、青色であることもそのような背景であれば仕方がないことだと思う。
議長	西口の駐輪場が解体とあるが、数は足りているのか。
事務局	計算上では当該駐輪場の解体後も、残る市営駐輪場と民間駐輪場で、現時点の需要に十分対応できる。
議長	承知した。事務局には基本計画上に明記することをお願いしたい。
	ポイント4 必要バース数の確認・整理
議長	特段意見がないようなので、事務局には提示された設定値で基本計画を作成していくことをお願いしたい。
	ポイント5 ゾーニングの基本計画の方針
委員	要望として、パターン①の歩行者空間はこれからの検討になるが、再開発地区側に歩行者空間を広げていきたいと考えている。図内の緑色で示

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
委員	された、「防災・集客を目的とした広場空間」を西口再開発事業区域（仮）まで広げることは可能か。
事務局	再開発と一体となった空間整備ができることは大きなメリットだと考えている。いただいたご意見を踏まえ、ゾーニングの基本方針（案）は再検討したい。
	ポイント6 景観方針・軸線の考え方
委員	イメージパースについて、再開発区域内について、公開する場合は慎重に検討していただきたい。特に広場のテントなど、権利者の誤解を招きかねない。
事務局	参考資料1 ページ右上に記載している中央一丁目再開発事業のイメージパースに準じ、修正したい。
議長	修正することでよろしいか。事務局には、その形で進めることをお願いしたい。
	その他
委員	全体のコンセプトとして回遊性というものが掲げられている。市内の動きを見ると老朽化した春日部市立看護専門学校の建替えがたびたび話題になっている。駅前に若者が集まる学校があれば、コンパクトシティにより寄与するのではないかと考える。本審議会の検討項目として、こうしたことは検討しないのか。
事務局	当該施設については、他の会議で議論している。よって、春日部市立看護専門学校については、そちらで検討することとなる。
委員	資料20 ページにあるバスバース数について、「高速バスと併用」と書かれているが、バスの乗降場はどのようなものを想定しているのか。道路交通法上、併設できないものもあるのではないか。
事務局	現時点では具体的な想定はしていないが、今後、バス停の配置等を決める上で交通管理者と協議をし、関係法令と適合するよう配置していく。
委員	資料26 ページにある、（新）中央町第1公園について、現況の進捗状況を教えてほしい。また、具体的なスケジュールが分かれば教えてほしい。
事務局	現在、基本計画の改定が行われている。今後、新本庁舎建設→旧庁舎解体→公園整備という流れになる。具体的なスケジュールは不明である。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
議長	資料9ページについて、一般車は駅前広場に入ってこないという方針となっているが、一般車の車両動線をどの程度記載するか、本審議会の方針を定めたほうが良いと考える。理想案を示すのか、理想案とは別に現実的なものを用意するのか、段階的に具体的な図を示すのか、次回で良いので事務局の方針を示すことをお願いしたい。
委員	東口の企業バスについて、現況、無秩序な利用（停車）が見受けられる。将来整備に向けて、こうした実態は検討されているか。
事務局	検討している。
	《 議題 1 - 2 西口駅前通り再編計画 》
委員	現在の交通量は、現在の施設を前提としたものだと理解している。西口の再開発において、開発事業者からは、大規模な駐車場や乗降場の確保ができるのか懸念されている。現況の道路ネットワークを考えると、西口駅前通りが1車線化されると踏切周辺やイトーヨーカドー周辺の交通に及ぼす影響が大きいのではないかと感じるが、いかがか。
事務局	検討は現況交通量を前提としている。西口再開発事業の内容次第で将来の交通量は大きく変わると考えている。西口再開発事業の計画検討と併せて、検討すべきと認識している。
議長	これまでの議論では、自動車は外周ネットワークを生かして、中心地は人主役にしていこうというものであった。将来的に西口駅前通りを4車線化に戻すこともあり得るといえることか。
事務局	将来的な整備目標は変えないが、その過程において周辺交通に支障が無 いよう、柔軟に対応していきたい。
議長	承知した。
委員	今後も協議していきたい。
委員	資料33ページのにぎわい空間の利活用について、歩道にキッチンカーが入らないとただの広い空間となり、非常にもったいない。過去、キッチンカーは警察から歩道に乗り入れないよう指導を受けてきた。藤棚の下にキッチンカーが滞留できる空間を作るなど工夫を凝らしてほしい。また、多様な計画案を示してほしい。
議長	キッチンカーと限定する必要はないと思う。方針は多様な使い方が可能になるような空間形成を目指すもので、キッチンカーは手段の一つである。新しい法律に対応するよう、「ほこみち活用エリア」等といった広く対応できるような表現を提示していただきたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
委員	鉄道高架事業には大変期待しているところだが、鉄道高架化整備と高架下の整備とは一体で行われるのか。それとも別事業として高架完了後に高架下の整備が行われるのか。スケジュールや事業主体の違いについてもお聞きしたい。
委員	現在実施している工事は高架化と駅舎の工事である。高架下の整備については、現時点では白紙の状態である。スケジュールも東武鉄道、県、市で調整はできていない。高架化後、速やかに高架下整備に移行できるよう、並行で議論を進めなければならないと考えている。
委員	計画、スケジュール等は分かった。高架下の整備は連続立体交差事業なのか、それとも別事業なのか。
事務局	事業としては原則別事業となる。例外として、高架下でも自由通路や駅施設は連続立体交差事業である。その他に生み出された高架下空間の整備は別の事業となり、それぞれの事業主体で行うものとなる。
委員	草加駅の事案であるが鉄道高架の時に、高架下利用の希望に対し、東武鉄道側は「2年前までは全く決められません」という返事があった。
意見聴取者	安心安全な駅を目指す上で、想定外の不慮の事態が生じていないか、工事完了後、一定期間利用状況を確認する必要がある。竹ノ塚駅の事例では、高架構造物は今年度いっぱい完成する。実際にその下に店舗はできあがっていない。これから造るところであり、他事例を見ても連立事業の後に続けて進んでいくというのが通例である。構造物ができてから着手できるので、工事完了の2年前くらいからの議論となる。
委員	今の話だと一般車両乗降場を高架下に想定するということは事実上難しいのではないか。
事務局	おそらく2年前という話は、商用利用に関することだと思う。例えば、都市計画決定された道路や乗降場となる道路は、事前に調整を東武鉄道、県及び市で行っている。その場所に一般乗降場等を設置することは可能である。
議長	東西連絡通路の横に1～2台止められるスペースを作ることは可能性としてはあり得るということか。
事務局	幅員は十分にあり、路肩に作ることは可能だと思う。他にも構造上、スペースはあるので、そこをどうしていくか、どこが使うかは東武鉄道、県との協議の中で進めていきたい。
委員	ここでの決定事項は今後の方針を決定付ける重要なものだと考えている。本日の資料は専門的すぎるのでわかりづらい。また、時間も足りない。今後は、事例を用いてわかりやすく示してもらいたい。

議 事 の 経 過

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
議長	事務局は可能な限り対応するようお願いしたい。 本日の結論は最終的なものではなく、今後の議論の中心的な方針になるものである。
議長	本日の結果を踏まえ、事務局は次回審議会に臨むようお願いしたい。

議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和5年8月29日

署名者の職・氏名

春日部市中心市街地まちづくり審議会委員 並木 素生 (原本は自署)